

令和8年度 第2回 釧路市地域公共交通活性化協議会

路線バス利用者の需要推定 および再編の考え方について

開催日時：令和8年7月17日（金） 14:00～

開催場所：KKSコンベンションセンター3階研修室

路線バス利用者の需要推定および再編の考え方について

■ 需要推定～再編検討フロー

1. バス路線別の乗降客数の推定(現況再現)

・地域間バス流動・バス路線別乗降客数の推定

2. 路線再編の検討

(1) ゾーンバス化の検討

・複数路線の合流箇所を乗り換え拠点とした、ゾーンバス化（幹線／支線のネットワーク再編）の検討

- ① 既存計画の妥当性の確認
- ② 新たなゾーンバス化の検討

(2) 将来需要予測

ゾーンバス化後の需要予測（全路線実施）

- ・乗り換え抵抗等を考慮
- ・将来人口の変化による補正

(3) 運行内容の検討

・ゾーンバス化によるサービスレベル向上に資する運行内容の検討

- 運行頻度
- 運行形態(路線バス、コミュバス、デマンド等)
- 車両サイズ 等

■ サービスレベルマトリクスとの照合
・再編後の公共交通サービスが、地域・地区別に必要なサービスレベルを満たしているか検証

3. 対策前後の比較検証

・再編実施による利用者数・収支の変化等を検証

路線バス利用者の需要推定および再編の考え方について

1. バス路線別の乗降客数の推定(現況再現)

- 令和7年度の検討では、KDDIの人流データを用いた地域間バス流動を試算
⇒ 試算結果が2路線の乗降調査結果との乖離が大きく、補正係数を用いて需要推定を進めることとし、令和8年3月の協議会で提示
- その後の検討により、各路線の輸送実績をもとに地域間バス流動のODの総量を補正する方針で、

■乗降調査結果との比較(2路線)

- ・「イオン昭和線」「白樺線(千代の浦方面経由)」の平日の調査結果と推計値を比較

OD内訳の別	推計値	乗降調査結果	推計÷乗降調査
地域内移動	1,855.6	137.0	13.5
地域間移動	548.3	790.0	0.7

- ・地域内移動:推計値が調査結果の約14倍
- ・地域間移動:推計値が調査結果の約7割

■バス路線別乗降客数の推定手順

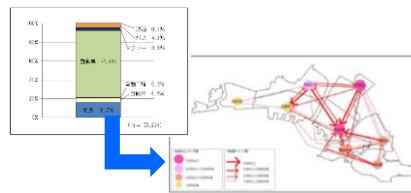
①人流データによる地域間流動の推定

- ◆人流データを活用して地域間の流動状況を整理



②地域間バス流動・バス路線別乗降客数の推定

- ◆人流データをもとに集計した地域間流動に対して、住民アンケートから移動目的(通勤・買い物等)の構成比、目的別のバス分担率を反映し、地域間バス流動を推定



③推定結果の検証

- ◆乗降調査を行ったバス乗降実態調査結果(2路線実施)と、人流データベースの地域間バス流動の推定値を比較検証

→検証結果より、推定値と実測値にギャップが生じていることを確認

④地域間バス流動(見直し結果)の算定

- ◆人流データに基づき推定した地域間バス流動のODの総量を輸送実績をもとに補正し、地域間バス流動(見直し結果)を算定

<補正の実施方針>

- ・輸送実績報告書における各路線の輸送人員の合計値と、ODの総量がイコールとなるよう補正

人流データベースの推定値

実績値による補正

路線バス利用者の需要推定および再編の考え方について

2. 路線再編の検討

現計画に基づく再編の進捗状況 ※R7.9利便増進計画(公開版)

■現状:(STEP2)を概ね完了

- 幹線系路線は既存の路線バスを活用(いわゆるゾーンバスは未導入)
- その他支線化の対象路線については再編完了
- 拠点は市立病院以外は整備済み

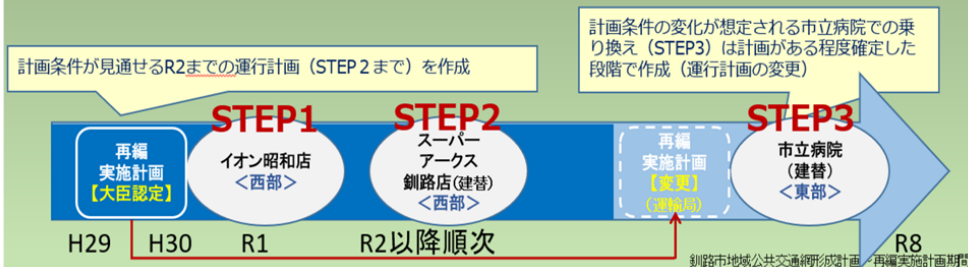
■次期計画:次ステップ(STEP3)の内容を実施

- 幹線系路線:ゾーンバスの導入
- ゾーンバスの代替としていた幹線系路線の再編(支線化)
- 市立病院を拠点としたゾーンバス化の検討

《段階的に運行サービスを高めるバス路線網の再編計画の基本的な考え方》



再編実施計画はSTEP2までの運行計画を作成

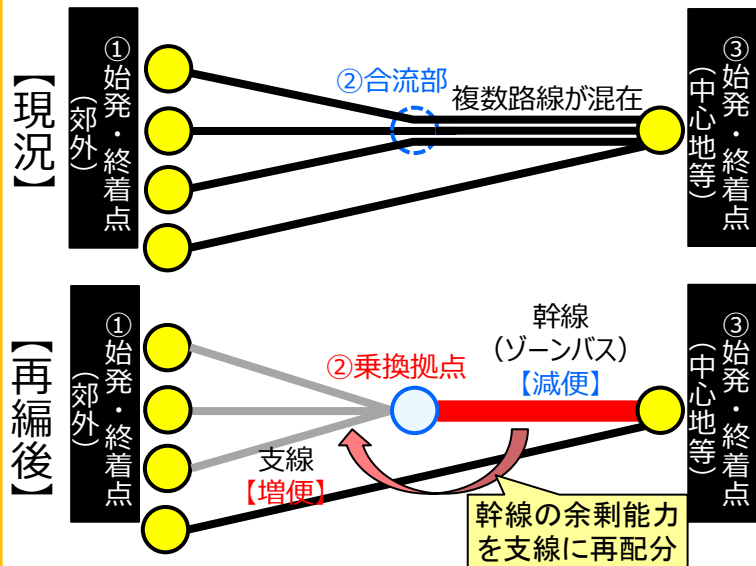


路線バス利用者の需要推定および再編の考え方について

2. 路線再編の検討 (1) ゾーンバス化の検討

(1) ゾーンバス化の検討

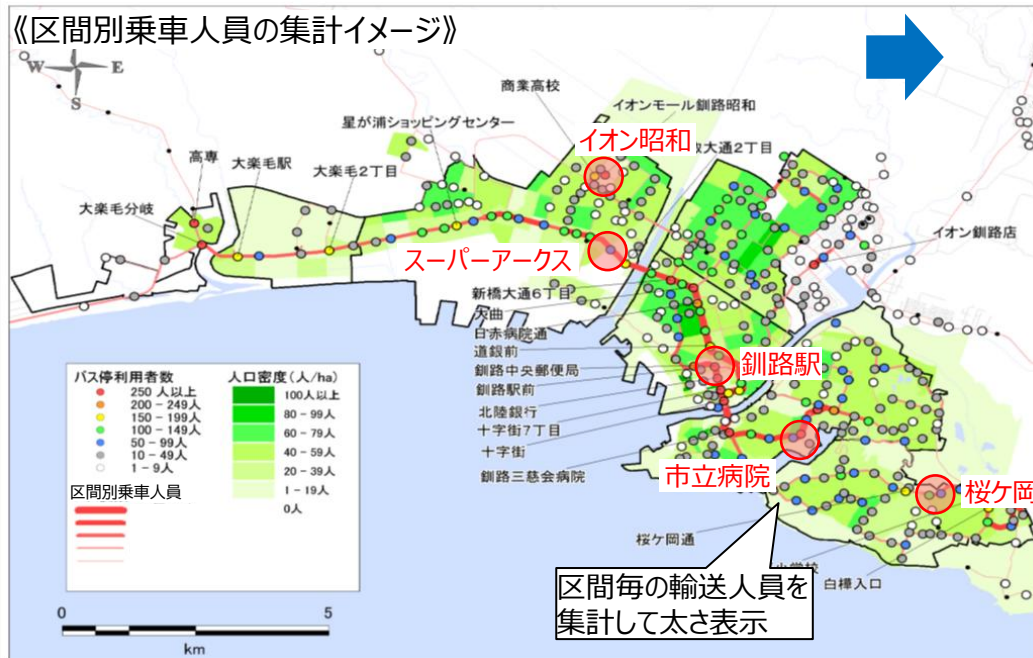
- バス利用者の状況をもとに、ゾーンバス化する路線および乗換拠点を設定
- 幹線の余剰能力を支線に再配分



■検討にあたっての現況確認

- 路線別の乗車人員を集計し、運行経路の区間単位による乗車人員を集計・図化
- 乗車人員が集中する区間、合流する箇所を把握

《区間別乗車人員の集計イメージ》



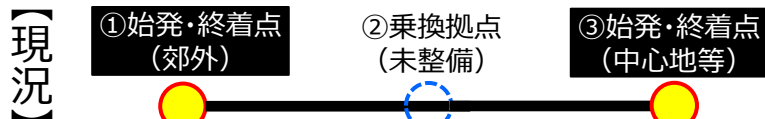
路線バス利用者の需要推定および再編の考え方について

2. 路線再編の検討 (2) 将来需要予測

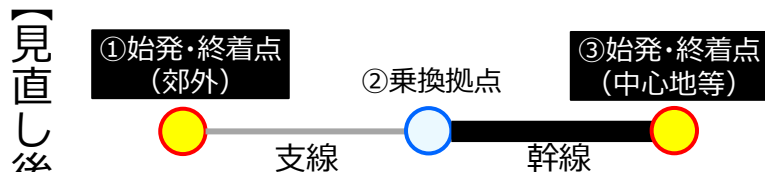
① ゾーンバス化による影響の反映

- ・ゾーンバス化により乗り換え運行となる幹線・支線の需要を予測
- ・バス利用者アンケートより乗換抵抗の係数を算出し、該当するODに乗じて将来需要を予測

《ゾーンバス化による幹線・支線の輸送人員の予測イメージ》



1路線で運行



【見直し後の需要予測 (OD別)】

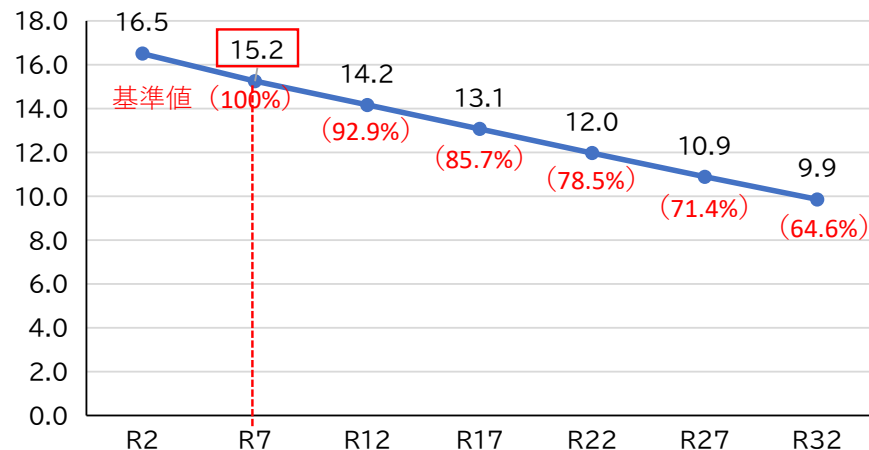
- ・①～②、②～③間のOD：現況
- ・①～③ (②で乗り換えるOD)：現況×乗換抵抗

② 将来人口の変化による補正

- ・計画最終年に相当する5年後の人口の伸び率を全乗降者数に乗じて将来需要を補正

- 現況と将来の地域別年齢別人口分布の比率により算定
- 地域公共交通計画の最終年 (5年後) に相当する令和12年の将来人口は、令和7年から約7%減少

(万人)



出典：国立社会保障・人口問題研究所

路線バス利用者の需要推定および再編の考え方について

2. 路線再編の検討 (3) サービスレベルの検討

● サービスレベルの検討結果を踏まえて、ゾーンバス化検討後の公共交通ネットワークに対する運行内容の検討（見直し）

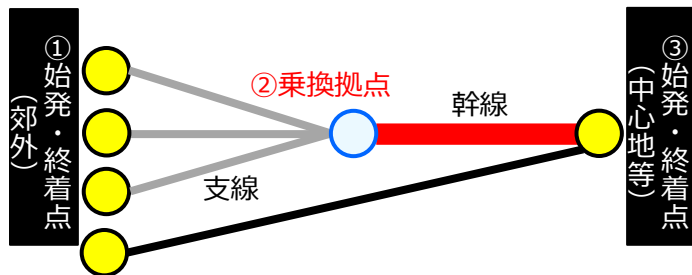
⇒ 支線・ゾーンバス化の対象外の路線の見直し、必要なサービスレベルに応じた運行内容の検討

（○運行頻度 ○運行形態(路線バス、コミュバス、デマンド等) ○車両サイズ 等）

※ ゾーンバス化により、現行のサービスレベルの維持・向上と運転手の人的配分の適正化を目指す

■ サービスレベルを踏まえた再編イメージ

【サービスレベル検証前】



【サービスレベル検証後】

